

## 東西武戦

本多 忠勝(ほんだ ただかつ) 39 歳

戦上手で戦国最強との呼び声高い徳川四天王の一人

しかし、本人は戦国最強にあまりこだわりはなく、徳川家の為に槍を振るう

稲姫(いなひめ) 14 歳

忠勝の娘で父のような立派な武人になりたいと父の背中を目指す

立花 宗茂(たちばな むねしげ) 20 歳

西の最強との呼び声高い武将。洞察力、戦闘力共に闇千代にも太鼓判を押されている

立花 闇千代(たちばな ぎんちよ) 18 歳

宗茂の妻で誇り高い武人。誇りの高さ故に上から目線の物言いをすることもある。男勝り

羽柴 秀吉(はしば ひでよし) 50 歳

実質的な現在の天下人。派手な事が好きで快活な性格

N ナレーション ? 歳

N「時は 1591 年 北条征伐の後、一時の平和が訪れている頃 東の本多、西の立花 戦国最強と呼ばれる二人 時の天下人 秀吉に大坂城天守に呼び付けられていた」

秀吉「二人共 ようお越し下された まあ 固くならず」

秀吉「さてと東と西 どちらが強い決めぬか？面白いであろう」

忠勝「はっ」

宗茂「はっ」

N「忠勝が本多屋敷に帰ると いの一番に稲姫が迎え心配そうに尋ねてきました」

稲姫「父上…秀吉様は何と？」

忠勝「うむ。ワシと宗茂殿 どちらが戦国最強か決めよとの事だ。」

稲姫「それは！ 武人の最高の誉れではありませんか！」

忠勝「まあ そうなのだがな ワシは最強にはあまりこだわりはなくてな。徳川家が天下を取れば…」

稲姫「何を言っておられますか！ 父上は武士なのですぞ～」

N「父の忠勝に詰め寄る稲姫」

忠勝「分かった 分かった…ふう 誰に似たのかこの圧力…」

稲姫「父上です！ とにかく戦国最強を！」

忠勝「…はい。…頑張ります。」

N「一方その頃 立花屋敷に帰ってきた宗茂は早速 勝負に向け素振りをしていました」

宗茂「ふんっ ふんっ ふんっ」

闇千代「気合が入っているな宗茂！ 何かあったのか？」

宗茂「闇千代。太閤に呼ばれてな 忠勝殿と戦国最強を決めることになった。」

間千代「おお それは誉れ高いな。決して負けるなよ 立花の名に恥じぬように！」

宗茂「分かっている。任せておけ」

間千代「そうだ 大一番なら これを」

宗茂「おお 有り難い。お貸ししてもらおう」